学校における学校体験の活動の流れ（一例）

初めて学校体験の学生を担当しますが、学校体験は、教育実習と違い様々な活動があるため手順がよく分かりません。
何度も受入れを行っている学校の一例を紹介しますので、参考にしてみてください。

① 面接等で、実施日時、行う内容等を確認（本校が希望する内容でよいか学生の承諾を。学生の希望も聞くとよい。）
※インターンシップの場合は、大学等からの連絡事項（必要時間数や評価や記録の有無等）を確認する。
② 活動上の諸注意、学校や子どもの様子、ルール、活動の意義・内容の詳細等を学生へ伝える。（個人情報は最低限）
③ まず教員が手本を見せる。学生に、教員や子どもの動きをよく観察し学び取るよう伝える。
④ 学生に行わせる。報連相の徹底。（任せきりにしない。過度な負担をかけない。責任能力を超えることはさせない。）
⑤ 毎日でなくてもよいが必ず教員との対話の時間をとる。（振り返り、軌道修正、情報収集、励ましと感謝の声掛け）
⑥ 徐々に、学生が子どもの様子を見て、困り感に気付き進んで声をかけたり支援したりできるよう見守る。
⑦ 別の活動にもチャレンジさせる。（様々な教員、子どもと関わらせる。）※複数人が関わる場合、連絡窓口を明確に。
⑧ 活動終了時には、労いの言葉や、教員を目指して頑張ってほしい旨を伝え、温かく送り出す。

横浜市では多くの学校体験の場を提供しています

✤ よこはま教育実践ボランティア ✤

学校インターンシップの理念に近いボランティアです。学校インターンシップを大学のカリキュラムに取り入れることが難しい場合や、学校インターンシップ前後の補完として御利用ください。

特徴

① 学生がどの学校で学校体験しているかを大学で把握でき、活動終了時には活動報告書を大学へ提出。
そのため、活動後、大学等でのフィードバックも可能です。また、実施記録書を学生に発行します。

② Web 上で「最寄り駅」「実施日時」「活動内容」等が確認できるため、学生自身の都合に合わせた活動を希望することができます。短期の活動もあるため、忙しい方でも利用しやすいです。

③ 学校情報に「学生に身に付けさせたい力」を明記しています。

※横浜市には、他にも「アシスタントティーチャー」など、様々な学校ボランティアがあります。

✤ 長期学校インターンシップ ✤

主に、教員養成系の大学等と連携し実施しています。

大学等の履修科目として、半年や１年間通して週１回程度の活動を希望する場合、教育委員会事務局が窓口になり、受入校を紹介するなど、円滑に実施できるようサポートします。（大学等と各学校との直接の関係の中で実施することも可能です。）

✤ 短期学校インターンシップ ✤

主に、開放制の大学等と連携し実施しています。

大学等の履修科目として、１～数日の活動を希望する場合、教育委員会事務局が窓口になり、受入校を紹介するなど、円滑に実施できるようサポートします。（大学等と各学校との直接の関係の中で実施することも可能です。）

横浜市では「学校体験」「教育実習」の円滑な接続を支援します

・学校体験を行っている学校へ教育実習※「内諾方式」の申請を行う場合、通常の申請開始日より１週間早く申請ができます。
・教育実習※「一括方式・追加募集」登録学生の中で、学校ボランティア等を行っている学生を本市学校が受け入れたい場合には、該当の学生を指定の市立学校へ優先的に配当します。　※小・中・義務教育学校の教育実習が対象　一括方式は連携大学のみ利用可

横浜市では「学校体験」「教育実習」の学生への指導を研修の一部に位置付けています

・横浜市人材育成指標（教員育成指標）に、人材育成の視点を入れています。
・短期学校インターンシップでの授業公開、教育実習生の指導を「学生の指導を通して自身が成長する機会」として、研修の一部に位置付けています。

関連 Web ページの御紹介

✤よこはま教育実践ボランティア　https://www.city.yokohama.lg.jp/kosodate-kyoiku/kyoiku/bosyusaiyou/volunteer/jissenvolu.html
（ＹＣＡＮページ[横浜市教職員のみ]）　http://inw1.office.ycan/b/ky/ikusei/daigakurenkei.html
✤アシスタントティーチャー　https://www.city.yokohama.lg.jp/kosodate-kyoiku/kyoiku/bosyusaiyou/volunteer/assistant.html
✤横浜市立学校の教育実習について　https://www.city.yokohama.lg.jp/kosodate-kyoiku/kyoiku/bosyusaiyou/jisshu/kyoikujissyu.html
✤横浜教育イノベーション・アカデミア　ポータルサイト　https://academia.edu.city.yokohama.lg.jp/
✤教員養成大学等の教職員の皆様　https://www.city.yokohama.lg.jp/kosodate-kyoiku/kyoiku/plankoho/kyouikukoho/daigakurenkei.html
✤「教師」という職業に関心がある高校生・大学生の皆様へ　https://www.city.yokohama.lg.jp/kosodate-kyoiku/kyoiku/plankoho/kyouikukoho/Interest-teacher.html
✤横浜市公立学校教員採用候補者選考試験　https://www.city.yokohama.lg.jp/kosodate-kyoiku/kyoiku/bosyusaiyou/seiki/kyouinsaiyou/kyoin.html
✤臨時的任用職員・非常勤講師について　https://www.city.yokohama.lg.jp/kosodate-kyoiku/kyoiku/bosyusaiyou/hijokin/other.html

学校体験 学校インターンシップ 学校支援ボランティア を横浜で

本リーフレットは、学校体験を行う大学等及び学生、受け入れる学校の双方にとってよりよい活動にしていくには、どのようにしたらよいかについて、共に考えていくためのツールとして作成しました。

学校体験は、学生にとって児童生徒とふれあいながら、学校の様子や教員の業務を学べる有効な機会であるとともに、学校や教員の魅力を体感できる機会でもあります。

大学等と教育委員会・学校が連携・協働し、将来の横浜の教育を担う人材を養成することができるよう、大学等及び本市学校にて是非御活用ください。

学生・本市の双方にとってよりよい活動に！

中央教育審議会「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について　～学び合い，高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～（答申）」（平成 27 年 12 月 21 日）には、学校インターンシップや学校支援ボランティアの取組について、「これらの取組は，学生が長期間にわたり継続的に学校現場等で体験的な活動を行うことで，学校現場をより深く知ることができ，既存の教育実習と相まって，理論と実践の往還による実践的指導力の基礎の養成に有効である。」と記されています。また、「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について　～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（答申）」（令和４年 12 月 19 日）においても、同様に学校体験活動の重要性が謳われており、更には、特別支援教育の充実に資する特別支援学校や特別支援学級等での体験機会を積極的に設けていくことか重要、という旨が記されています。

✤ 大学等･学生にとって ✤

1　教員を目指すモチベーションの向上

教員を目指す学生の減少
「教員は大変」というイメージが先行し不安…
↓
風評に惑わされず、教員の魅力を体験して確認することが大切

2　学校現場や子どもの特性を知り、理論と実践を往還

実習や着任時にリアリティショック
理論は重要だが、学校現場では理論どおりいかないことも…
↓
学校現場の状況を知り、自身の経験知を向上させることが大切

3　自身の教員としての適性を知る

教育実習や着任時に適応できない
教員志望だが、果たして自分は向いているのだろうか…
↓
早い段階で学校体験を行い、教員に向いているかを確認

✤ 本市学校にとって ✤

1　教員を目指す学生の増加を促進

教員採用試験の倍率の低下
多様な進路先の中から「教職」を選択してもらうには…
↓
早い時期から横浜市の学校・教員の魅力を発信することが大切

2　優秀な教員の養成

経験の浅い教員の増加、教育的ニーズの多様化
教育の質の向上ため、初任者も即戦力に
↓
学生の段階から優秀な教員を養成することが大切

3　チーム学校の一員として

学校業務の多忙化、働き方改革の推進
マンパワーが不可欠
↓
学校の一員として様々な活動を支援してくれる人材を切望

作成　横浜市教育委員会事務局 教職員企画部 教職員育成課　　令和５年４月発行（令和８年２月一部改訂）
お問合せ：☎ 045-411-0517　✉ ky-renkei@city.yokohama.lg.jp

学校体験について考える

※学校管理職・教員及び大学教職員（学生の声を含む）へ実施したアンケートから引用し作成（令和４年度実施）

✷ はじめに ✷

「ボランティア」の意味は、「自発的に社会貢献すること」ですが、学校体験の場合、**「学校の一員として子どもたちの学びや成長を支える。」**という本来の意味のほかに、**「教員を目指そうとする学生が実践経験を積ませていただく場。」**という意味合いもあります。

なるほど。忙しい学校にとって、学生のボランティアはありがたい存在だけど、「将来の仲間を育てる。」という視点も忘れてはいけないのですね。

そうですね。お互いにとってよりよい活動にすることが大切です。ここからは、学校と大学から頂いた声を基に進めていきます。　※文章中、横浜市立学校を「学校」、大学、短期大学、大学院、専門学校の学生を「学生」と記します。

✷ 将来の仲間を育てる ✷

ある学校では「学生への声掛け、お礼、よさを見付け価値付ける。」を全教職員で行っているそうです。また、別の学校では、「学生は、学校現場で教員としての実践力をつけるため活動している。教員の業務補助をしてもらう便利な存在という捉え方はよくない。」ということを全教職員で確認しているそうです。

まさに「将来の仲間を育てる」という考え方ですね。学生は、活動してみてやりがいを感じれば、本市教員を目指し頑張ることでしょう。教員志望者が減少している中、後継者を育てることは大切なことですね。

一方、大学からは、「学生が学校から『活動を増やせないか』『宿泊行事に来てもらいたい』等を頼まれ困惑しています。大学生は日々忙しく授業も多いので、学生の都合も聞いていただけるとありがたいです。」という声を頂いています。

確かに宿泊行事の日に大学の授業があったら、学生は板挟みで困ってしまいますね。

学校の要望に応えられる学生もいれば難しい学生もいます。「将来の仲間を育てる」という視点で、学校において、学生が安心して活動を行うことができる環境づくりができるとよいですね。

✷ 様々な体験ができると思ったのに… ✷

学校が学生に補助をお願いしたい内容は、「一人の子どもに付き添う。」「個別支援学級※のみの補助。」等、学校事情を踏まえた特定の活動が多いです。　※横浜市では「特別支援学級」を「個別支援学級」といいます。

学校側からしたら、できるだけ手厚い支援が必要なところの補助をお願いしたいですよね。

一方、大学内での振り返りの中で「〇〇しかさせてもらえなかった。」という学生の声があるようです。

確かに学生からしたら、学校の様々なことを活動して学べると思っていたのに、一つの活動しか体験できないのはちょっとがっかりするかもしれませんね。

ただ、教員の仕事は、子どもに関わるという性質上、マニュアルどおりにできるものではなく、高度な技術と経験が必要で、学生がいきなり複数の業務に携わるのはかなり難易度が高いです。まずは、依頼された業務の補助をしっかりと行うことが大切です。

いきなり多くを望むのではなく、一つの業務の補助をしっかり経験し、今自分に与えられた環境（活動）の中で、何を学べるかを考えることが大切なのですね。

どのような活動であっても必ず学ぶべきことはあります。実際に教員になった際、学校体験で一つの業務にしっかり取り組んだことが必ず役に立ちます。また、「面談時に学生の希望を聞く。」「段階を踏んで様々な活動に挑戦させる。」「難しいことは言わず、子どもと進んで関わってほしい。」という学校も多くあります。頑張る学生は学校も応援します。学生の皆さんはまずは目の前のことをしっかり行いましょう。

✷ 学生の自主性に任せる？任せない？ ✷

学校側の声は、「指示待ちになりがち。」「自主的に動いてほしい。」という声が多い一方で、大学側からは「学生の立場でどこまで踏み込んでよいのか分からない。」という声が多いです。また、学校側の別の声として「勝手に判断して行動しないこと。」というのもあります。

自分が学生なら戸惑うなあ。特に初めて行う人は右も左も分からずどうしたらよいか分からないのでは。

だからと言って手取り足取り教えてもらおうと待っていてはだめ。学校はとても忙しく、学校教員が本来教える相手は学生ではなく児童生徒です。

そうすると、学生は教員や子どもの動きを観察し、自ら学び取ろうとする姿勢が大切になりますね。

そのとおり。学校も「判断に迷ったときに報告、相談を必ず行うこと。」「活動後に振り返りの会を設けている。」「よかった点などを中心に指導・助言を行った。」等、学生が戸惑わないよう配慮しているケースも多くあります。

それは学生にとって心強い。学生は助言や振り返りにより、軌道修正しながら成長できますね。

学生は「積極性」「観察」「報告・連絡・相談」、学校は「段取り組み」「必要事項の説明」「学生への声掛け・助言」を、双方がしっかり行うことで「自主性に任せる。」ことが可能になるわけです。

なるほど。その結果、学校にとっては学生が大切なスタッフとなり、学生にとっては教員のやりがいを感じる場となり、双方にとってよりよいものになるわけですね。

✷ おわりに ✷

「学生は学校の状況を」「学校は学生の思いを」、お互いに尊重し合うことで、双方にとってよりよい活動になります。最後に学校側、大学側からのメッセージを御紹介します。
未来の子どもたちがのびのび成長できるよう、横浜市は大学と連携し、魅力ある教員を育てていきます。

【大学から】

・体験を通して、実習前の学生の教育観を深め、専門的、人間的な課題を自覚させる機会にさせたいと考えております。そのためには、児童・生徒への愛情、教員としての使命感を、学校の先生方の姿勢から学ばせて頂ければ幸いです。

・近年忙しすぎる学校現場の状況に尻込みする学生もいることから、大学教育の課題でもありますが、学校におかれましては、体験を通して教師のやりがいや喜びをお伝えいただけますと有り難いです。

【学生から】

・**[体験前の期待]** 学校の先生方の動きを見て学び、子どもとの関わりをたくさんもち、自身の長所・短所を見つめ直し、自分のなりたい教師像を見付けたいです。

・**[体験前の不安]** 自分のことを頼ってくる子どもたちの期待に応えることができるのか心配です。また、教員としての立ち振る舞いができるのかも不安です。

・**[体験後]** 座学の知識だけではなく学校現場の状況を常にアップデートし、周りを見て、子どもたちや先生方の声に耳を傾けることの大切さを知りました。とにかく学びたいという気持ちと、子どものことを第一に考え行動する大切さを感じ、先生方に積極的に聞くことで対応できることを増やしていきました。先生方が行っている一人ひとりに合った対応によって、子どもたちが安心して活動できている様子を見て、自分も、それぞれの子どもに合った学習の方法を考えていける教師になりたいと思うようになりました。

【学校から】

・学生にとっても、本校の子どもや教職員にとってもお互いに有意義な時間になるよう心がけています。本校で学校体験を行った学生の方は、大変生き生きと活動し、子どもたちも大喜びでした。

・教育現場では大変な面ばかりクローズアップされがちですが、教師は、希望や夢、感動を子どもと分かち合えるすばらしい職業です。学生の皆さん、是非、積極的に学校体験を行いましょう。